

「総合学習」活動支援案

日 時 2004年10月8日(金) 5・6校時
児 童 6学年 9名
支援者 越 山 真 史

1. 単元名 「米ースをねえ！～身近なお米から世界を見つめよう」
2. 単元目標 国際コメ年そして国際協力50周年の今年、世界の基礎的食料としての「おこめ」の重要性を理解するとともに、開発途上国の現状を知り、自分たちでできる国際協力活動を考え、実際に行動することができる。
3. 単元について

有数な農業地域に住む子ども達は、昨年度、「プロジェクト米X（コメックス）～日本のお米を救え！」という名のもと、「米の消費拡大」を目標に、米粉を使用した新商品開発という活動に取り組み、大きな成果を挙げることができた。現在は、その商品化に向けて企業等に売り込みの真っ最中であり、学習はまだまだ継続されている。

さて、今年度は、昨年度の学習中に子ども達が疑問に思った「米が余っているにもかかわらず、なぜ日本は、輸入しているのだろうか？」を導入として、まず農林水産省北海道事務所の方を外部講師にお招きし、その疑問に答えていただいた。その際、「今年は、国際コメ年」だということをお教えいただいたことをきっかけに、「世界の米事情を通して、飢餓や貧困に目を向ける」子ども達の取り組み「米ース（コメース）をねえ！」が始まった。そしてインディカ品種（世界の約9割がこの長粒種。日本では、タイ米が有名。ほとんどがアジアの開発途上国で生産されている。）の稲を、この北国で苦勞して育てることに挑戦！ J Aや北海道農業研究センターなど、多くの方々にご協力を得ながら、数々の困難を乗り越えて、意欲的に栽培を行っているところである。

6月末には、家庭科と社会科の時間を活用し、世界のお米（9種類）の食べ比べを行い、その国々についての調査活動を各自で行ってきた。また、7月の初めには、開発教育のファシリテーターをお招きして、「世界がもし100人の村だったら」の参加型ワークショップを開催していただいた。子どもたちは、特に、世界の「貧富の差」「同性愛者の割合」「人口の増加予測」に驚かされ、「もっと学習したかった。」とつぶやいている子もいたぐらい意欲的に参加していた。

その後はJICA札幌のご協力により、青年海外協力隊OB（ケニアに3年間農業指導）の方、ユニセフ北海道支部の方々や国際ボランティア活動者等の専門家を本校にご招待し、「開発途上国の現状」や「国際協力の必要性」、「物やお金があれば、豊かと言えるのか？」「まずは身近なことから始めよう。」「開発途上国の人々の立場に立った国際協力が大切。」「環境を守ることが、国際協力の第一歩。」「開発途上国の現状や国際協力の必要性を世間に広めることは、とても重要な国際協力活動。」「か

わいそうだからではなく、同じ地球の仲間として助け合う。」などの貴重なお話をいただけてきた。開発途上国のビデオも多数鑑賞してきた。現在は、「実際に開発途上国に住んでいる人に、聞いてみよう！」ということで、現地の日本人の方（ネパール、スリランカ、カンボジア）から子どもたちの質問にご回答いただくなど、さらに深く学びを進めているところである。この結果、子どもたちは国際協力活動の必要性を強く感じているようである。

本単元の最終的な目標は、これらの学習によって得た多くの知識や体験そして意欲をもとに、自分たちでできる国際協力活動を考え、実際に行動することをめざしている。

本時は、JICA札幌にいらしている中米の研修員9名の方とお会いし、それぞれの国の現状を知るとともに、自分たちが考えた国際協力活動について、実際にアドバイスをいただくことを目的としている。

今後は、来週12日に、JICA職員の方を招聘し、「日本の国際協力50周年」についてのご説明や自分たちの国際協力活動が決して自己満足とならぬよう、アドバイスをいただく。そして、11月13日には、これらのまとめとして、札幌の「国際コメ年シンポジウム」にて、学習活動報告会を子ども達が行う予定となっている。またケニアの子どもたちとの交流も現在、計画が進められているところである。

4. 児童の実態

本校が建つ石狩平野は我が国有数の米どころである。そのほぼ中央に位置する美唄市は、農業を産業の基幹とし、特に昨年度の米の生産量は、北海道内市町村の中で第3位、全国第11位を誇る。

本校は西美唄地区に35年前に4校統合によって設立された全校児童50名の僻地小規模校であり、四方を水田に囲まれている。保護者の多くが農業を営み、児童にとっては、その農業という産業がとても身近なものであると考えられ、4年生より総合的な学習の時間において「稲作体験学習」等に取り組んだ。

しかし、5学年の社会科「食料生産を支える人々～農業」の学習を進めていく際、恵まれた環境を生かし切れずに、児童の知識や情報が不十分かつ曖昧なことが明らかになった。また、急激な情報化社会により、テレビやテレビゲームなどの一方向しか持たぬ情報伝達メディアが頻繁に活用されることとなり、その結果、本校6学年9名においても、それが社会性や創造性などの伸長に多大な影響をおよぼしたと思われる。

実際、日常の学校生活においては、幼い頃から人間関係が固定化され、受け身的で引っ込み思案な児童が多く、特に表現力「話す」ことに対して抵抗を感じ、他者とのコミュニケーションを思うように取ることが出来ない場面が多々見受けられる。また、課題解決学習に対しても、主体性に欠け、お互いが依存し合い、めあてに向かって努力及び協力し合うことが苦手な児童が多い。

このような実態から、主体的に他者と関わり、自分の考えを伝える「コミュニケーション能力」の育成の必要性を痛切に感じ、外部講師招聘やメール交換などによる双方向での情報交換を行う場面を授業に積極的に取り入れる課題解決学習に取り組むこととした。また、その学習の中から、多くの知識を得て視野を広げるだけではなく、

行動力・実践力を身に付けさせ、地域社会の一員そして地球市民としての自信と自覚を培っていききたい。

5. 指導計画

- (1) なぜ米が余っているにもかかわらず、日本は輸入しているのか？～昨年度の疑問から（外部講師招聘・・・農林水産省北海道農政事務所）
- (2) インディカ品種を育ててみよう！（外部講師招聘・・・農林水産省北海道農政事務所、北海道農業研究センターおよびJA美唄）
- (3) 国際コメ年とは？ 世界のお米は？～「調べてみたい」「食べてみたい」・・・調査活動
- (4) 世界のお米を食べ比べしよう！～9種類の外国産のお米（家庭科）
- (5) 食べ比べした9種類の米を作っている国って、どんな国なのか？～調査活動・新聞作り（社会科）
- (6) 世界の音楽を鑑賞しよう！（音楽科）
- (7) もし世界が100人の村だったら～ワークショップ（外部講師招聘・・・北海道開発教育ネットワーク）
- (8) 開発途上国って、どんな国？ JICAってなに？ 青年海外協力隊ってなに？～ビデオ鑑賞（外部講師招聘・・・ケニア青年海外協力隊OB）
- (9) 国際協力ってなに？～調査活動（外部講師招聘・・・国際ボランティア活動者）
- (10) ユニセフってなに？ ユニセフの国際協力活動～調査活動（外部講師招聘・・・日本ユニセフ協会北海道事務所）
- (11) 現在、開発途上国に住んでいる日本人や青年海外協力隊員にメールで尋ねてみよう！
～ 開発途上国の現状やその国の米作り、国際協力の実態等（ネパール・スリランカ・カンボジア）
- (12) 【本時】
外国人に、その国の現状を尋ねたり、自分たちが考えた国際協力活動について、アドバイスをもらおう！～外国研修員（中米諸国9名・・・JICA札幌）との交流

- (13) 国際協力50周年とは？ ODAとは？ 自分たちでできる国際協力は、何か？～話し合い活動・計画（外部講師招聘・・・JICA職員）
- (14) 外国の食べ物を外国人と共に作ってみよう！～中国人留学生（専修大学北海道短期大学）との交流（家庭科）
- (15) インディカ品種の稲を外国人と共に収穫しよう！～外国農業研修員（中国・バングラデシュ・・・北海道農業研究センター）との交流
- (16) 自分たちの考えた国際協力活動の実践
- (17) 発表会に向けて、準備・練習をしよう！
- (18) 発表会（国際コメ年シンポジウムにて）
- (19) 収穫したインディカ品種の米をどう活用するか？～国際協力活動に役立てる方法の話し合い
- (20) 国際協力活動の必要性を全国に訴えよう！
- (21) 活動の反省および今後について
- ※自分たちの学習活動を、共通課題を持った交流校と情報交換し合おう！（通年・・・広島市安東小学校6年）
- ※開発途上国の子どもたちと交流しよう！

6. 本時の展開

（1）本時の目標

- ・ 様々な外国の現状（特に「水」「食料」「ごみ問題」について）を知り、今後の「開発途上国の立場に立った自分たちの具体的国際協力活動」の示唆を得ることができる。
- ・ 初対面の外国人との交流の中で、自分の考えを持ち、意見や感想等を相手に積極的に伝えることができる。

(2) 本時の展開

時間	段階	児 童 の 活 動 (教師の支援)
0 0		「米ースをねえ！」の学習を紹介しよう！
1 5		3つのグループに分かれてコミュニケーション活動
つ		水道設備の状態は？
か		食料に関する問題は？
む		ごみ処理についての問題点は？
		自国と日本を比べて感じたことは？
		(グループ巡視) その原因は？ 解決策は？ (個人支援)
深		自分で考えている国際協力活動について、意見や感想をいただこう！
め		
る		
6 0		全体発表
ま		
と		
め		児童による意見発表 研修員の方からの感想発表
広		「各国の現状等について」 「本時の学習について」
げ		「今後の国際協力活動について」 「今後の国際協力活動について」
9 0		

(3) 本時の評価

- ・ 様々な外国の現状（特に「水」「食料」「ごみ問題」について）を知り、今後の「開発途上国の立場に立った自分たちの具体的国際協力活動」の示唆を得ることができたか。
- ・ 初対面の外国人との交流の中で、自分の考えを持ち、意見や感想等を相手に積極的に伝えることができたか。

※資料

「米ースをねらえ！」見通しカード

1. 今回の学習の「めあて」は・・・	
①外国の様子を知って、これから行う「自分たちでできる国際協力活動」のヒントを得る。	
②初めて会った外国の方々に、積極的に自分の意見や質問を伝える。また、その外国の方々の話をしっかり聞く。	
2. 外国の方々に質問したいことは・・・（特に「水」「食料」「ごみ」問題について）	
①	
②	
③	
3. 自分で行いたいと考えている国際協力活動は・・・	
①	
②	
③	
4. 学習後の反省は・・・	
①「外国の様子（特に水・食料・ごみ問題）」を知ることができたか？	(◎○△)
②「自分でできる国際協力活動」のヒントを得ることができたか？	(◎○△)
③「自分の意見や質問」を積極的に言うことができたか？	(◎○△)
④「外国の方々の話」をしっかり聞くことができたか？	(◎○△)
⑤学習を終えての自由反省	
.....	
.....	